

はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。港南台第一小学校では、横浜市営バスと連携して実施しました。
- 港南台第一小学校は、JR 根岸線 港南台駅から約1.4km離れたところに立地しており、周辺は住宅街となっています。学校の近くには、「港南台第一小学校前」のバス停があります。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する①「バスのバリアフリーに関する座学」とともに、横浜市交通局が担当する②「死角体験、紙芝居及び横断歩道体験」並びに③「高齢者体験及び車いすの利用・介助体験」をクラスごとに行いました。
- ①の座学においては、**バスやタクシーのバリアフリーの現状や、モビリティマネジメントの大切さ等**、様々な“知識”を伝えました。
- 横浜市交通局による②、③の体験授業においては、バス車両を用いて、バスのバリアフリーの他、バスの乗り方や交通安全など、バスに係る様々なことを学びました。

■ 交通バリアフリー教室について  
 【日時】 令和2年10月28日（水）  
 第2～4校時（9:40～12:15）  
 【対象】 横浜市立港南台第一小学校  
 4年生 1～3組（92名）  
 【内容】  
 ①バスのバリアフリーに関する座学  
 ②死角体験、紙芝居、横断歩道体験  
 ③高齢者体験、車いす体験  
 →クラスごとに分かれて実施



横断歩道体験の様子



高齢者体験の様子



紙芝居の様子



車いす体験の様子



座学の様子

2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学では、『もっと知ってほしい「バス」のこと』と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできた**バスのバリアフリーの現状**を中心に授業を行いました。
- 子どもたちは、習い事やお出かけでの移動で日常的にバスを利用する子が多い一方、日頃ほとんどバスに乗らない子もいました。
- バスの利用者が減少していくと**「バスが将来、無くなってしまおう」**可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- 授業の最後には、子どもたちから「これまではクルマでの移動が多かったけれど、使えるときはバスを使いたい」といった発言が聞かれました。
- **「便利なクルマに頼りすぎず、今と同じように、バスで行ける所はバスで行くこと」**を日頃から心掛け、家族や友人などと少しずつ実践してほしいことを伝え、授業を終えました。

■ 座学に用いた教材

①説明用パワーポイント：  
 もっと知ってほしい「バス」のこと



②小学生向けマンガリーフレット



おわりに

- 交通バリアフリー教室を経験して、**車いすで移動することの大変さ**とともに、**移動の介助の難しさ、大変さを肌**に感じた子どもたちがたくさんいました。
- 今回のバリアフリー教室により、子どもたちがバスへの関心をもち、**これからもバスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートするきっかけ**となってほしいと思います。
- また、実際の“体験”を行うことで、これからの生活の中で「活かした知識」として子どもたちに根付くことを期待します。
- 子どもたちは、運転席や客席に座ったり、横浜市営バスの職員や運転士さんと積極的に交流したりしながら、バリアフリーの事だけでなく、バスの様々なことを学んでいました。死角体験では、バスの周りには死角があることなど、交通安全についても学ぶことができました。

